

島根大学  
広報誌  
2012.4

広報しまだい

# Shimadai



Vol.12



魅力ある島根大学の未来像を語る  
**小林祥泰 新学長インタビュー**

留学生が学びの国際化を語る  
**島根大学と国際交流**

島根大学の研究・地域貢献事業紹介  
島根大学最新ニュースTOPICS



〈表紙写真〉

本号の留学生による対談「留学生が学びの国際化を語る 島根大学と国際交流」の一コマ。松江市内の蕎麦店で行われた対談では、雪の降る中、熱い想いをそれぞれに語り合いました。日本情緒漂う雰囲気には海外からの留学生も満足していました。

02

広報しまだい  
 Shimadai  
 2012.04/Vol.12/CONTENTS

トピックス	02
魅力ある島根大学の未来像を語る 小林祥泰 新学長インタビュー	06
研究・事業紹介	08
留学生が学びの国際化を語る 島根大学と国際交流	18
サークル紹介	22
島根スサノオマジック紹介 島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント	23

SIMANE  
 SHIMANE  
 UNIVERSITY

## 1 第44回ミュージアム講座

### 「弥生時代のはじまりと渡来人」『出雲』形成前史』を開催



3月19日、第44回島根大学ミュージアム市民講座「弥生時代のはじまりと渡来人」『出雲』形成前史』を松江市の松江ステイックビルにて開催しました。この講座は、島根大学萌芽研究プロジェクト『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開に関する総合的研究』の研究メンバーが、リレー形式で講師を務める「続・考古学・歴史学が語る先史・古代の出雲」の最終回。今回は、国立歴史民俗博物館研究部の山田康弘准教授に、弥生時代のはじまりについて、出雲地域の遺跡事例をまじえながら解説していただきました。

## 2 「中国四国そばフェスタ in 松江」にて、出雲おろち大根をPRしました



生物資源科学部は、11月26日、27日の両日開催された「中国四国そばフェスタ in 松江」に出展し、出雲おろち大根のPRを行いました。会場には中四国の蕎麦屋をはじめ、蕎麦粉を使った商品、蕎麦を研究する大学や地方自治体のブースが出展。島根大学のブースでは、出雲おろち大根の紹介、試食と種子の販売を行いました。試食された方々からは辛い出雲おろち大根は蕎麦の薬味に合うと大変好評でした。種子も来場された方にたくさん購入して頂き、出雲おろち大根を普及する大変良い機会となりました。

### 3 山本廣基島根大学長の 退任記念講演会を開催

任期満了に伴い、3月末日をもって退任された山本廣基前学長の退任記念講演会を3月19日に開催しました。この講演会は、松江キャンパスの教養講義室棟で行われ、同時に遠隔授業システムにより出雲キャンパスに中継されました。多数の学生及び教職員、一般市民の方々に前に「島根大学での35年」と題して、これまでのご苦労や島根大学が抱える課題等について講演されました。山本前学長は「1977年1月に農学部環境保全学科の助手として採用されてから数十年、色々なことがありました。土壌環境、化学



物質、微生物をキーワードとする教育・研究に従事し、農業の影響評価試験法の提案など時代のニーズに即した研究にも注力してきました。また、2004年に学生支援担当副学長、2006年から企画・財務担当副学長としての経験を生かし、運営費交付金が削減される中、教育・研究に対する基盤経費は削らないように最大の配慮をしながら「学生満足度日本一、地域貢献」を合言葉に教職員一同、心を一つに頑張ってきました。同時に、地元経済界や自治体、地元の皆さまに働きかけ、島根大学のアピールも精一杯してまいりました。あっという間の35年間でもありました。島根大学、地域の発展に、微力ながらお役にたてたのではないかと自負の念もあります。今まで支えてくれた皆さまに感謝し、益々の発展を祈念しつつ私の最終講演とさせていただきます。」と述べられ、ご自身の35年に渡る島根大学での活躍を締めくくられ、聴衆の大きな拍手の中、教壇を後にされました。

### 4 学生寄宿舎の竣工記念式典を挙



3月21日、整備を行っていた島根大学の学生寄宿舎（A棟・168名収容）が完成し、竣工記念式典を挙行了しました。新しく整備された学生寄宿舎は、鉄筋コンクリート4階建て、完全個室（身障者用居室2室含む）。机、椅子、ベッド、エアコン、ミニキッチン、バス・トイレ等を完備し、セキュリティにも配慮しています。式典では山本学長の挨拶に続き、学生寮自治会代表の挨拶、テープカットなどが行われました。なお、既存の男子寮・女子寮の改修工事も予定され、こちらは平成25年4月にB・C棟として完成予定です。

### 5 平成23年度島根大学学位授与式を挙



平成23年度島根大学学位授与式を医学部・医学系研究科は3月21日に医学部体育館にて、松江キャンパス（医学部・医学研究科を除く全学部・全研究科）は3月23日島根県民会館大ホールにて挙行了しました。平成23年度は合計1351名が本学を卒業及び修了しました。両日とも山本学長から学位記授与、式辞につづき溝口島根県知事からの御祝辞を賜り、学生からは島根大学で学んだことを糧として社会に旅立つ若人としての決意が述べられました。また式場の外では多数の在学生も集まり、卒業生の門出をにぎやかに祝いました。

## 6 島根大学芋焼酎「神在の里」の仕込み体験作業



11月3日に出雲市内の焼酎製造工場にて「森林から耕地、海へ」のフィールドワーク実習として、同授業の受講生を中心とした学生12名が島根大学芋焼酎「神在の里」の仕込み作業を体験しました。「神在の里」は島根大学生物資源科学部附属生物資源教育センター神西砂丘農場で収穫されたサツマイモ(品種ベニアズマ)を原料に、出雲市の富士酒造で製造され、島根大学生協で販売している島根大学ブランド焼酎です。参加者は、仕込み作業の一つであるサツマイモの洗浄、切断作業、蒸し芋の粉碎と発酵タンクへの運搬作業を体験しました。

## 7 ポリビア国サンフランシスコハビエル大学長が島根大学を訪問



2月6日、ポリビア国サンフランシスコハビエル大学の Walter Arizaga Cervantes 学長が島根大学を訪問されました。今回の訪問は、現在ポリビア国で行われている JICA 事業「持続的農村開発のための実施体制整備計画」の一環で、セルバンテス学長は島根大学生物資源科学部にて行われている様々な研究を視察されました。視察に先立って行われた表敬訪問では、山本学長からの歓迎の挨拶の後、島根大学を初めて訪問されたセルバンテス学長と互いの大学の特色や国際交流等について和やかな懇談が行われました。

## 8 被災地復興を願う「たすきリレー」、本学学生がつなぎました

2月25日、東日本大震災の被災地復興を願い、全国の大学生を中心とした JASP(全国学生プロジェクト)メンバーが福島から日本列島を横断する「たすきリレー」を開催し、出雲市から松江市までの48区間、47kmを走破しました。今回、島根地区の「たすきリレー」を担当したのは島根大学の学生サークル「島大 Spirits」のメンバーを中

心とした本学学生と島根県立大学の学生で、このリレーの趣旨に賛同する小学生から社会人までの約70名のランナーが順番にたすきを渡しながら走り、被災地の復興を願いました。当日は肌寒い雨模様となりましたが、大勢の市民の方々からの温かい声援に励まされ、心強い力走となりました。また、島根地区のゴールとなった松江市の白瀧天満宮のロータリーでは、ス



テージイベントや被災地の写真展示などの催し物、横断幕に被災者の方々に寄せたメッセージの書き込みなどもあわせて行われました。午後4時のゴール時には、松江市のマスコットキャラクター あっぱれくんやしじみ姫も登場し、島根らしい東北への応援メッセージとなりました。このたすきリレーは、順次各県を走り抜け、3月11日に福島に到着しました。

## 9 島根大学で作製した酸化亜鉛ナノ粒子を用いた研究成果が米国物理学会ホームページで紹介されました

島根大学では、2004年〜2007年にS・ナノテクノプロジェクトを組織し、簡易な技術で作成でき、安価で環境に優しい実用的なナノテクノロジの開発を行ってきた。このプロジェクトは現在、宍道湖・中海エリアの都市エリア産学官連携事業、島根大学のプロジェクト研究「S・グリーン・ライフナノ材料プロジェクト」へと発展していま



研究成果が紹介されたページ  
<http://www.physicscentral.org/explore/pictures/nano-plants.cfm>

す。また、本学は、これまで北テキサス大学と学生レベルでの研究を通じた国際相互交流を行っており、北テキサス大学からの派遣学生が本学で作製した酸化亜鉛などの材料を用いて帰国後も多くの研究をしています。この度、島根大学と北テキサス大学の国際学生研究交流の研究成果が米国物理学会ホームページで紹介されました。これは北テキサス大学の Ben Urban さんが島根大学で作製した酸化亜鉛ナノ粒子を用いて行った研究で、ホームページ掲載画像は、酸化亜鉛ナノ粒子を付けた植物細胞が近赤外光を照射されて、緑色や紫色に光る様子を示しています。照射する近赤外光の波長により光吸収を伴わない非熱過程(倍の周波数に波長変換(緑色))と熱過程(2つの光子を同時に吸収して酸化亜鉛を励起(紫色))の制御が可能で、新しいバイオイメージングや光線力学的な治療への応用が期待されています。

## 10 平成24年度前期の公開講座のお申し込み受付中



島根大学では、一般市民のみならずに向けて広く学んでいただける様々な学習機会を提供しています。現在、平成24年度前期の公開講座の申込みを受け付けています。申込みの締め切りは、各講座とも開講日の一週間前までとなっています。なお、各講座とも定員になり次第締め切ります。また、平成24年度後期の講座は、9月1日より受付開始の予定です。講座によっては早期に定員に達することも予想されますので、お早めにお申込みください。申込方法等については下記までお問い合わせください。

生涯学習教育研究センター  
<http://www.ercll.shimane-u.ac.jp/> TEL:0852-32-6408

## 11 総合科目「酒」で酒蔵見学実習を実施



総合科目「酒」一杯の酒から覗く学問の世界は、「酒」を切り口に、酒を詠んだ漢詩、医学から見た酒、醸造科学による酒造りの解説、酒造会社の1年と「酒造りの心」など、多様な分野の解説講義を受講し、最後に酒蔵見学実習で実際に学びを深めるといふ授業です。この実習を1月13日、27日の両日、松江市の米田酒造(李伯酒造)の2つの酒蔵で実施しました。当日は、新酒の仕込みの真っ最中でしたが、19名の受講生を迎え入れて頂きました。参加者は、豊かな学問の世界と、伝統の技と最新の醸造科学から生み出される日本酒の世界を堪能しました。

## interview

本年4月1日に島根大学の学長に就任した小林祥泰学長。今後の大学運営のあり方、また魅力ある島根大学を目指して、どのような施策を行っていくのかなど、島根大学の未来像についてお話を聞きました。

## 魅力ある島根大学の未来像を語る 小林祥泰 新学長インタビュー

就任にあたり、どのような「島根大学」を目指すのか、今の率直な気持ちをお聞かせください。

まず、島根大学は地域に根ざした大学として、教育と研究を進めていきたい。本来、大学というのは人材養成の場所であり、研究だけを行う機関であってはいけないと考えています。それを基本理念として考えています。

また、島根大学は中規模校で小回りの利く大学であるので、そのネットワークを活かした、さまざまな改革を行いたいと考えています。

そのひとつが、グローバルな感性を育てていくこと。例えば、留学生の人数を増やし、交流の機会を密にしていくことも始められると思います。そして、こちらからの留学の機会も増やす。留学も短期のものでもいいと思うんです。医学部でも短期留学を実践してきましたが、1週間現場に入るだけで意識が変わります。海外の教育を肌で感じ、日常の会話を通じても文化やシステムの違いがよく分かる。こういう機会をできるだけ多くする仕組みを早急に作りたいと考えています。

こうしたグローバルへの取り組みを行いつつ、地域に根ざした大学と

して、鳥根の特色を活かした、グローバル(グローバル&ローカル)な教育機関にならないといけないと考えています。大学での取り組みも、大学の中だけで完結するのではなく、民間企業、公的機関などに対して、こちらから積極的に関わっていく姿勢を強化していきたい。学生たちも地域と関わる機会を持つことで、コミュニケーション能力や社会力というものが養えるものと考えています。

**産学官連携、あるいは様々な共同事業などを通じた地域貢献に対し、どのようなお考えをお持ちでしょうか？**

医学部では、地域医療への貢献等、いろいろと仕組みを作ってきました。こうした経験を活かして、鳥根県全体を活性化する拠点としての鳥根大学になるための施策を考えていかねばと思っています。

そのためには鳥根大学から世界にも発信できるようにユニークな取り組みを行っていく必要がありますし、そうしたアイデアを生み出していくためにも、先程も申し上げた、「グローバル」な視点に立つて、産学官連携を積極的に行っていくなければなりません。

具体的には、民間企業や官公庁での相互研修等を深めていく必要もあるでしょう。表面的なものではなく、現場が直接的に連携がとれるようになる具体的な活性化にも繋がっていきます。教職員の視野が広がり、取り組みが活性化すれば、そのまま学生たちのモチベーション向上も図れます。

ただ、教職員だけに負担をかけるのではなく、コーディネーターのような専門的な人材が必要になると考えています。医学部を例に取れば、地域医療の分野で専門のコーディネータを育てましたが、もしも必要な分野に専門家がいないければ、こちらで育ててしまうという可能性もあるでしょう。

こういう仕組みを作るのは、教育の分野に限らず、どの世界でも難しいとは思いますが、まず戦略を立てないと、何も始まりません。そうした意味でもグローバルという理念を戦略にして、全体に浸透させていくことが重要だと考えています。

**地域の方々へのメッセージを願います。**

産学官連携での取り組みも含めて、今まで以上に県民の皆さまへ近

づく大学でありたいと思います。直接的には、大人の教育。現在の公開講座に加えて、新たな教育の場を提供していきたい。それから、鳥根大学を地元の文化拠点として、地域文化に対する研究や啓発を含めて県民の皆さんと協調して取り

組んでいきたいと考えています。地域文化に対する意識を高め、今まで以上に地元の皆さまが誇りを持てるような郷土になるよう、鳥根大学がお手伝いしていきたい。そのためにも、より開かれた大学を目指していきたいと思っています。



こばやし・しょうたい

**小林祥泰**

昭和21年生まれ。慶應義塾大学医学部卒。平成5年11月鳥根医科大学医学部教授、平成8年9月鳥根医科大学保健管理センター所長、平成15年10月鳥根大学医学部教授、平成17年4月鳥根大学医学部附属病院長、平成18年4月鳥根大学理事。平成24年4月より鳥根大学長に就任。

撮影協力／モニュメントミュージアム 来待ストーン  
レストラン Nature

## 法文学部

研究  
事業紹介

introduction

近代日本における地方自治制度史を対象に  
府県制の成立過程をたどりその特質を解明する

日本近代地方自治の、とりわけ、明治23年に施行された府県制に関する研究に取り組んでいる居石正和教授(法文学部)。  
昨年9月、「島根大学研究功労賞」でも表彰された、その取り組みの内容をうかがってきました。

これまで明らかにされていなかった  
近代日本地方自治の府県制史

近代日本における地方自治制度史研究のなかでも、これまで対象として扱われることが少なかったという府県制・郡制に関する研究に取り組んでおられる、居石正和教授。

「日本の近代地方自治制度は、明治21年の市制町村制。同23年の府県制・郡制を中心につくられたと言われています。その中でも府県制の成立した過程をたどることで、近代日本の地方自治制度の特質を解明し、ここから、現在の府県制の持つ意味を

「国と地方のあり方や今後の地方自治を考える上で、地方行政や地方に関する法制度の成立を考えることは、それらの議論のベースとなるものだと思います」と語る居石教授。

法文学部教授  
居石正和



国立公文書館所蔵

中央が明治23年に公布された府県制(法律第35号)御署名原本。右上がこれに大きく関わったドイツのお雇い外国人法律家、アルバート・モッセ。左上が井上毅、その下が山県有朋。





2010年2月に発行された居石教授の著書『府県制成立過程の研究』。これまでの教授の研究により明らかになってきた、府県制成立の過程を読み解くことができる。



国会図書館所蔵



国会図書館所蔵

見出そうという取り組みです」  
(居石教授)。

これまで、府県制に対する研究が進んでいなかったのは、「明確ではないが、戦後の日本に地方自治を根づかせるため市町村を中心とした施策が進められたことや、当時の史料の数から言っても差があったことなどが原因ではないか」と居石教授。

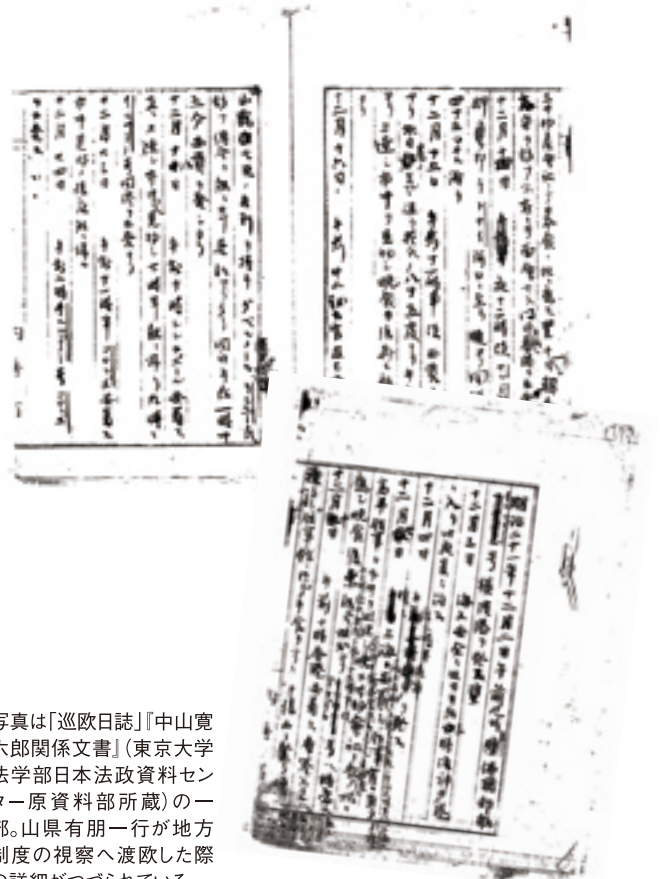
### 史料を網羅することで見えてきた府県制成立の背景とその後

こうした状況の中、府県制に対する調査が本格的になったのは、居石教授が共編の『近代日本地方自治立法資料集成』を上梓した際、明治初年から昭和初期までの立法史料が網羅的に集められた

ことがきっかけでした。

「これまで、ドイツ人で明治憲法の起草にも関わったアルバート・モッセの構想が、内務大臣山県有朋の支持をうけて実現したとされてきました。しかし、府県制・郡制法案は、法制局長官井上毅の批判をうけて、自治が否定されて制定されることがわかりました。」(居石教授)。

地方のことを地方で決めるという原理を否定し、府県を国の支配および影響下に置くという府県制の原理は、自治の性格を持ち



写真は「巡欧日誌」『中山寛六郎関係文書』(東京大学法学部日本法政資料センター原資料部所蔵)の一部。山県有朋一行が地方制度の視察へ渡欧した際の詳細がつつられている。

つつあった実際の府県行政と食い違ってくる。地方自治制度の複雑な構造を今度の調査研究で明らかにしていくのが目下のテーマだという居石教授は、「こうした問題を是正すべく、明治32年に府県制・郡制が大幅に改正されます。府県制の歴史を調べていくことで、地方自治に果たす府県の役割を理解出来るのではないか。それは、道州制といった現在の地方自治に関する議論にも寄与できるのではないかと締め括っていただきました。」

# 研究 事業紹介

introduction

教育学部

研究・事業紹介

10

## 学校教育における「ダンス教育」を研究のテーマに その歴史的背景から地域貢献にまで繋げていく試み

「ダンス教育」をテーマに、授業づくりから教材づくりまで実践的に取り組む、教育学部の廣兼志保准教授に、研究の内容から、平成20年から島根大学附属幼稚園で取り組んでいる「親子ふれあい講座」のお話までうかがいました。



「親子ふれあい講座」で行われた立体的な図形をつくって遊ぶゴム跳びの様子

### 学校教育でのダンス教育の 実践とダンス教育の歴史研究

舞踊(ダンス)教育に関する研究を専門とするなかで、「とくに学校教育に関しては、創造力を育むことや、みんなで一つのダンスを創りあげることによって生まれる協調性、もちろん運動感覚を養うことも、ダンス教育の重要な要素です」と学校教育とダンスの関わり合いを説明する廣兼志保准教授。

小中学校では体育の授業でダンス教育が行われますが、廣兼准教授は、教材開発に取り組む一方、ダンスの教材開発と普及

「舞踊教育が始まった頃の先生方の記された記録を見ると、当時の先生方の教育にかける熱い想いを知ることができます。ぜひこの想いを研究を通じて、今後の教育に活かしたいと思います。」と語る廣兼准教授。



教育学部准教授  
廣兼志保



「親子ふれあい講座」で昨年行われた「手足でペインティング」の一コマ。大人も子どもと一緒に体を動かして楽しめるメニューとして好評でした。



の歴史についての研究も行われています。

「大正期に新教材として学校教育に取り入れられたフォークダンスは、現在も当時の教材の一部がそのまま受け継がれています。現存する当時の資料が少ないので、詳しい調査が困難な状況にあります。当時の先生方がお持ちだったダンスや行進遊戯の資料を研究に取り入れていけたらと思います」  
(廣兼准教授)。

研究と実践をどう結びつけていくかを今後の課題と捉えている廣兼准教授は、大正・昭和初期に体育指導をしていた方の指導致案やノート等、当時の資料提供も熱望しております。



### 研究テーマと相互に作用する親子ふれあい講座での取り組み

平成20年からは、附属幼稚園の園児と保護者を対象とした「親子ふれあい講座」の講師として、表現活動を通じた親子のコミュニケーションプログラムに取り組んでおられます。

「昨年はコーンスターチスライムを使った「手足でペインティング」という講座を行いました。泥遊びにお絵かきをミックスしたような内容ですが、ス



現役の教師を対象にした「教員免許更新講習」でも廣兼准教授の担当で「表現運動・ダンスの教材と指導法」の講座を開催しています。写真は、昨年の講座の様様。

ライムの不思議な感触を楽しみながら、子どもたちの表現力や皮膚感覚を養います」(廣兼准教授)。

この他にも、立体的な図形をつくって遊ぶゴム跳びなど、子どもたちの様々な身体感覚を自覚めさせるとともに、コミュニケーション能力を高めるプログラムが行われています。

子どもだけでなく、大人と一緒に楽しめる内容だけに、テーマである教材開発にも大いに役立っているとのこと。

# 研究 事業紹介

# 3

introduction

総合理工学部

研究・事業紹介

12

## 自らの研究分野を民間との共同研究に展開 暮らしやすさという感覚を数値化・実証する取り組み

メインの研究テーマとなる、木材の構造解析とともに、住環境の科学的検証にも取り組む、中井毅尚准教授(総合理工学部)。調湿木炭を取り入れた住空間の検証等、自らのテーマを活かした産学連携による共同研究などのお話をうかがいました。

材料としての木材の構造解析と

「暮らしやすさ」の科学的実証

「木材の破壊現象におけるパーコレーションモデルの適応」という研究テーマとともに、廃材を利用した調湿木炭の共同研究など、産学連携の取り組みもおこなっている、中井毅尚准教授。

「仕口(しぐち)や継手(つぎて)といった、伝統的な構法の構造解析に始まり、木材の強度を解析していくのが、私のテーマです。木材に力を与えて、その力が木材にどのような影響を与えるのか、その力が伝播、



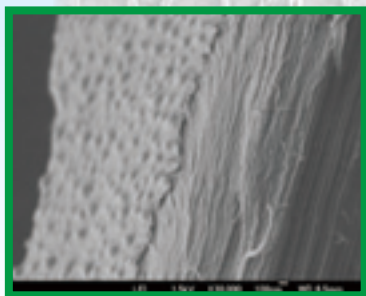
「主な研究領域の木材の破壊現象におけるパーコレーションモデルの適応の基礎的な研究と、そこから発展的に様々な住環境に関する数値的な検証を通じて、共同研究など地域に貢献して行きたい」と語る中井准教授。

総合理工学部准教授  
中井毅尚

①樹木—木材—細胞—繊維へとつながるヒエラルキー。

### 中井准教授の手がける 「木材のパーコレーション」に関する研究の概念

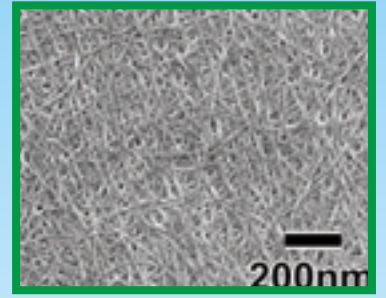
木材の破壊現象における損傷蓄積過程と破断強度との関係を明らかにし、分子レベルからマクロレベルにおける破壊評価法の確立を目指して研究が進められています。



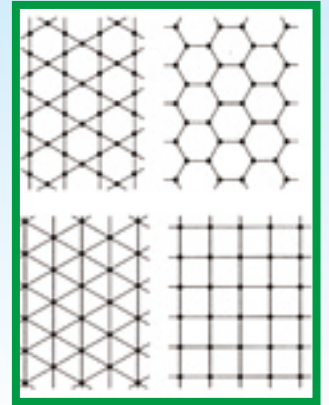
②木材の繊維(主要構成成分:セルロース・ヘミセルロース・リグニン)。



昨年7月に行われた記者発表で、島根大学と出雲土建株式会社が共同研究した調湿木炭「炭八」に関する成果を記者発表する中井准教授。



③木材の繊維を解繊→セルロースナノ繊維の取り出し。



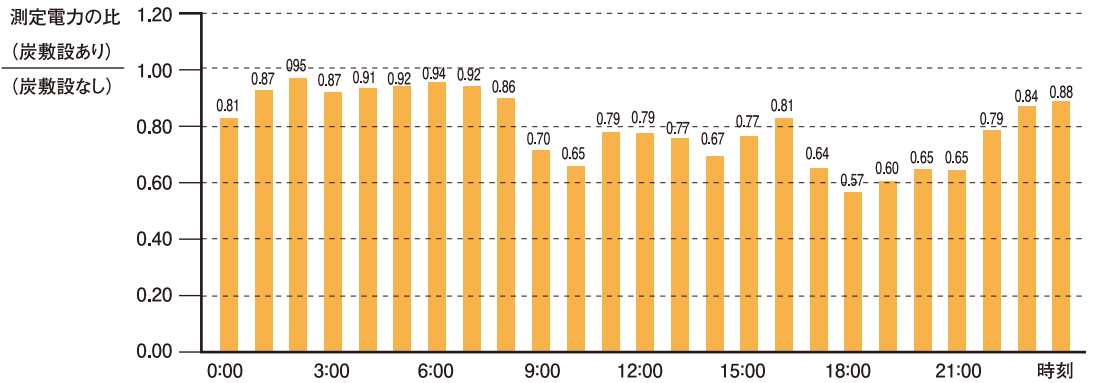
④様々なネットワーク(つながりの科学=パーコレーションへ)。

浸透(パーコレーション)していく過程を調べ、その木材の構造や強度を解析していきます」(中井准教授)。

また、「木造を好まれる人が多いのはなぜか」といった抽象的な疑問に対し、温湿度や体感、さらに地理的な条件等を含めた「住環境」に対する科学的なアプローチも研究テーマのひとつで、この分野を活かした産学連携の取り組みにも協力しております。

**研究テーマに繋がる産学の連携環境も考慮した調湿木炭の検証**

約10年前から始まった、地元企業と島根大学の共同による、調湿木炭「炭八」の開発。中井准



**調湿木炭「炭八」敷設による省エネ効果を示した一例**

(全く敷設していない場合と床下と天井に「炭八」を敷設した場合との測定電力の比率を表しています)  
調湿木炭「炭八」を敷設したマンションで、床下と天井に「炭八」を敷設した部屋と、全く敷設しない通常の部屋を設けてエアコンを連続運転させ、その使用電力を測定した結果。木炭を敷いた部屋の方が使用電力は一日平均24%少ないことが明らかとなりました。この結果は様々なメディアで紹介されました。また、インターネットサイト「NHKエコチャンネル」(<http://www.nhk.or.jp/eco-channel/>)では、動画でこの取り組みを見ることが出来ます(サイトトップページで「木炭利用の住宅 節電効果は」で検索)。

要望もあり、床下だけでなく天井にも敷設する室内調湿材となりました。それによる温湿度の変化や、カビやダニの発生率等を検証したところ良い結果が得られ、これらの研究成果をもとに、調湿木炭を活用した住宅の開発が進められてきました」(中井准教授)。

こうした取り組みのなか、調湿木炭を敷設した住居の使用電力量の調査を提案し、実際に検証したのが、中井准教授でした。

教授はこの製品の科学的検証に平成18年から参加されています。

「建築廃材を再利用した「炭八」は、当初、床下調湿材として開発されましたが、ユーザーの

に削減されることを証明しました」(中井准教授)。

今後も、「暮らしやすさ」といった感覚的なものを数値化、実証していく取り組みは続いています。

## 光合成生物(植物・藻類)のアスコルビン酸合成を解明 多様性に満ちたメカニズムを追求する取り組み

これまで明らかにされていなかった、植物や藻類のビタミンC(アスコルビン酸)合成のメカニズムを解明した、石川孝博教授(生物資源科学部)に、その研究の内容や、今後の取り組みなどをうかがいました。

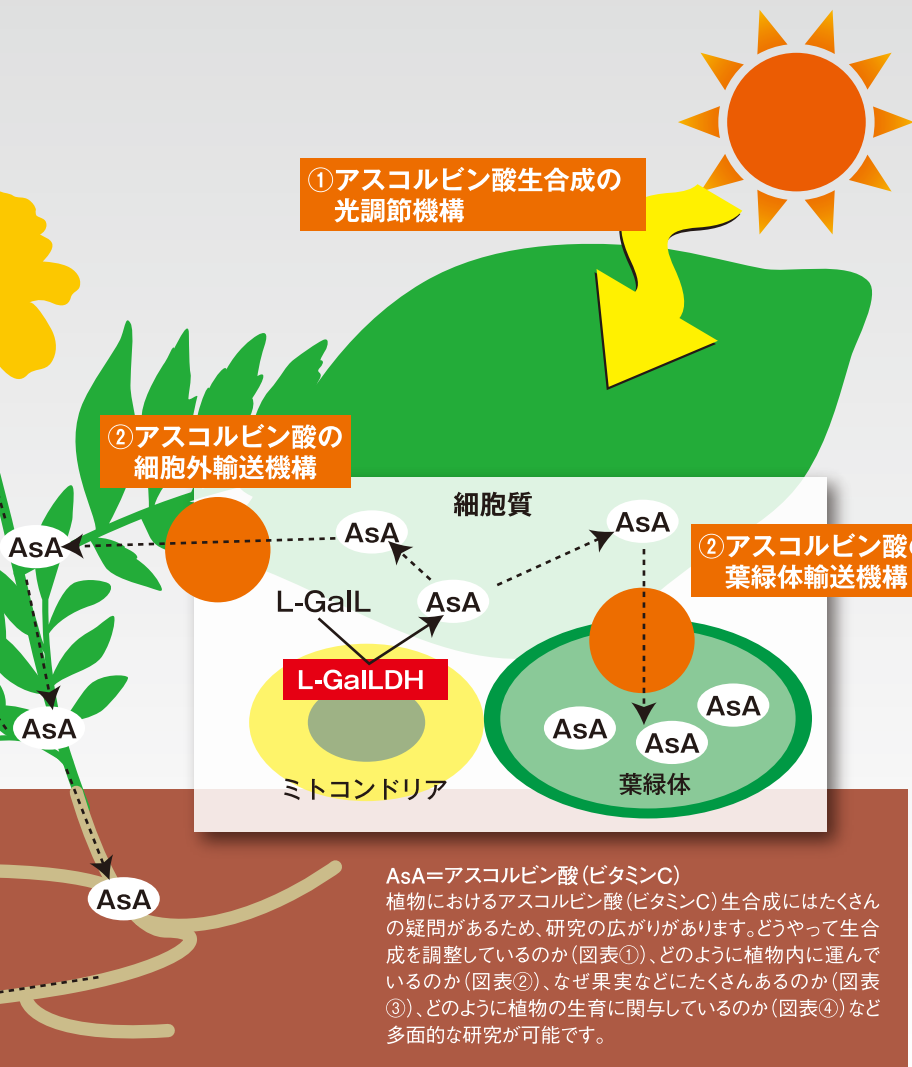
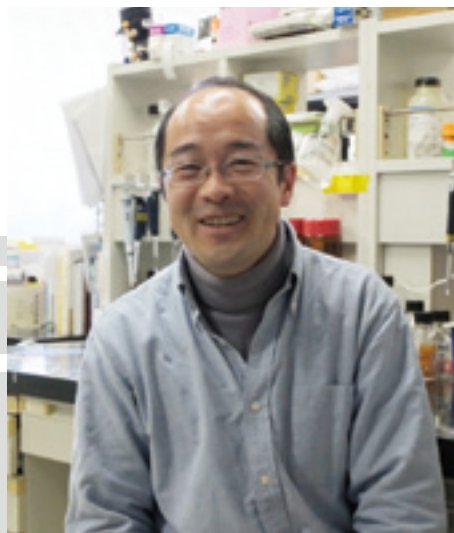
アスコルビン酸(ビタミンC)を合成する  
光合成生物に対する素朴な疑問の解明

「なぜ植物は日焼けしないのか?なぜ植物はビタミンCを多く含んでいるのか?」。それが現在の取り組みのきっかけになったという、石川孝博教授。

「私たち人間は、ビタミンC(アスコルビン酸)を自ら合成できないため、食事から摂取しなければなりません。その最大の供給源は、野菜や果実などの植物や、ワカメやコンブなどの藻類になりますが、なぜ植物や藻類がビタミンCをたくさん作ることができるのかといった疑問

「ビタミンCの名前は誰でも知っているし、人の健康維持に大切なことは広く知られていますが、植物でどのように合成・蓄積され、どのように輸送されるかは全く知られていませんでした。このような基礎的な疑問を研究につなげてきました」と語る石川教授。

生物資源科学部教授  
石川孝博



AsA=アスコルビン酸(ビタミンC)  
植物におけるアスコルビン酸(ビタミンC)合成にはたくさんの疑問があるため、研究の広がりがあります。どうやって合成を調整しているのか(図表①)、どのように植物内に運んでいるのか(図表②)、なぜ果実などにたくさんあるのか(図表③)、どのように植物の生育に関与しているのか(図表④)など多面的な研究が可能です。



石川教授の研究の概要概念図。これまで明らかにされていなかった、植物や藻類のアスコルビン酸(ビタミンC)合成のメカニズムを紐解くことで、その成果の様々な分野への応用や実用が期待されています。

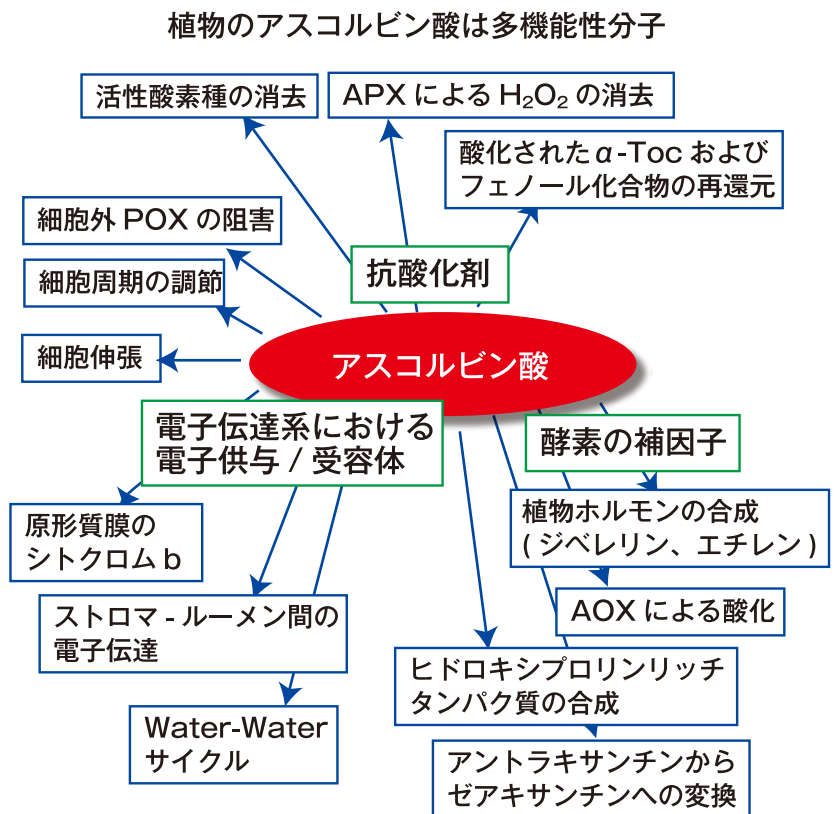


これまでの成果としては、シロイヌナズナ(植物)やミドリムシ(藻類)を使った研究からアスコ

**植物と藻類のビタミンC合成の違いを証明  
着実な成果を今後の取り組みに繋げる**

問について、これまで明確な回答はありませんでした。こうした素朴な問題を解明してくることが、私の研究のテーマです」(石川教授)。  
「植物はどのようにアスコルビン酸を作るのか」「その生成量をどうやって調整するのか」という大きな疑問から、なぜ葉や果実に多く含まれるのか、細胞内や組織にどうやって運んでいるのかといった、より具体的な疑問までテーマは多岐にわたります。

ルビン酸の生合成経路の仕組みを遺伝子レベルで解明することに成功した石川教授。これによって、植物と藻類ではアスコルビン酸を作るための物質や経路が異なっていることがわかりました。また、別のモデル植物を使った研究からは、植物の生育にアスコルビン酸が必須であることを証明するなど、着実に成果が上がっています。



植物におけるアスコルビン酸の働きを示す図。アスコルビン酸は多機能性分子として、植物の生育において様々な働きを行います。

「現在は、アスコルビン酸生合成の物質、経路の違いの解明とともに、そこにどんな意味があるのかといった疑問の解決、また光がアスコルビン酸合成量に与えるメカニズム解明に取り組んでいます」(石川教授)。

今後は、植物がよりアスコルビン酸を多く生成する栽培条件の提案や、枯れ害などを防ぐための植物のストレス診断等に役立てていきたいと思います。

## タンデムマス・スクリーニング検査で対象の疾患

### アミノ酸代謝異常

1. フェニルケトン尿症
2. ホモシスチン尿症
3. メーブルシロップ尿症
4. シトルリン血症1型
5. アルギニコハク酸尿症
6. \*高チロシン血症1型
7. \*高アルギニン血症
8. \*シトルリン欠損症

### 有機酸代謝異常

9. プロピオン酸血症
10. メチルマロン酸血症
11. グルタル酸血症1型
12. イソ吉草酸血症
13. HMG血症
14. 複合カルボキシラーゼ欠損症
15. メチルクロニルグリシン尿症
16. \*3-ケトチオラーゼ欠損症

### 脂肪酸代謝異常

17. CPT-1欠損症
18. TFP欠損症
19. VLCAD欠損症
20. MCAD欠損症
21. \*グルタル酸血症2型
22. \*CPT-2欠損症
23. \*TRANS欠損症
24. \*SCHAD欠損症
25. \*全身性カルニチン欠乏症

青文字・赤文字・緑文字の疾患=現時点で一次対象疾患としているもの(見逃す確率が低く、早期発見が障害防止・軽減に役立つと考えられる病気)

\*印の疾患=二次対象疾患(見逃す可能性があったり、治療効果が十分に証明されていないため、現時点では検討段階としている病気)

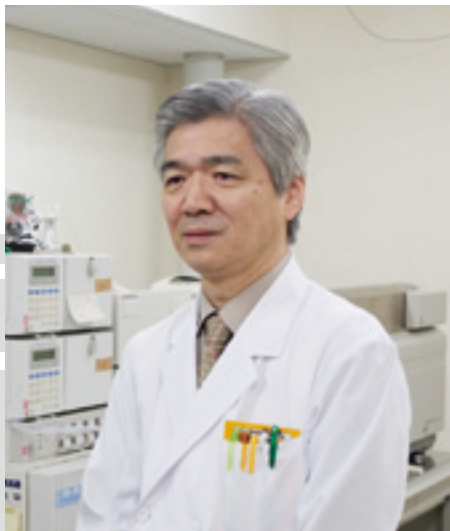
1次対象疾患：16疾患 2次対象疾患：9疾患

- ・クレチン症
- ・先天性副腎過形成
- ・ガラクトース血症

新生児の病気の中には、症状が出る前に発見、治療をすることで障害の予防や軽減が可能なものがあります。こうした病気を早期に発見し、治療することで障害を防ぐ事業が、昭和52年に始まった「新生児マススクリーニング」検査です。現在では、ほぼ100%の新生児が検査を受けていますが、これまでに6つの病気を対象にしていたのに対して、山口清次教授が推進する「タンデムマス・スクリーニング」を導入すれば、今

昭和52年より実施されてきた検査法に代わる画期的な検査法「タンデムマス・スクリーニング」

「タンデムマス・スクリーニング検査で発見される先天性疾患は、発生頻度としては非常に稀なものが多いのですが、これらの疾患を見つけ、適切な治療を行えるかどうかは赤ちゃん自身はもちろん、周囲の人々の人生や将来にとって大きな影響があります。」と語る山口教授。



医学部小児科学講座教授  
山口清次

# 研究 事業 紹介

introduction

医学部

## 先天性代謝異常などの新生児の病気を早期に発見する「タンデムマス・スクリーニング検査」事業への取り組み

新生児の先天性代謝異常などを早期発見、治療に役立てるための画期的な検査法「タンデムマス・スクリーニング」。この事業の全国的普及に長年尽力してきた、医学部小児科学講座の山口清次教授に詳しいお話をうかがいました。



タンデムマス導入  
新生児マススクリーニングの体制整備・質的向上

- 1 **臨床的効果の検証、効率化**  
対象疾患の自然歴、確定診断、検査施設基準の検討
- 2 **診断精度向上、対象疾患の設定**  
対象疾患設定、診断指標の検討、検査機関の技術調整
- 3 **診断、治療ネットワーク**  
稀少疾患の診療における全国ネットワークの連携
- 4 **患者家族のQOL向上**
- 5 **新規治療法の開発**  
親の会との連携、QOLを高める新規治療の開発
- 6 **検査体制、精度管理の質的向上**  
精度管理体制、血液ろ紙の扱い、説明同意書の統一
- 7 **費用対効果の検証**  
対象疾患の費用対効果解析
- 8 **産科医療機関との連携、社会啓発**  
産科機関の意識調査、啓発戦略

山口教授が研究代表を務める「タンデムマス導入による新生児マススクリーニング。体制の整備と質的向上に関する研究」における分担研究テーマ。

マススクリーニング検査で  
対象の疾患

アミノ酸代謝異常

- ・フェニルケトン尿症
- ・ホモシスチン尿症
- ・メープルシロップ尿症

- ・クレチン症
- ・先天性副腎過形成
- ・ガラクトース血症

までと同じ採血方法で、19種類もの病気が発見可能になるのです。

専門のチームによる研究の成果が、**全国に先がけて、島根全域で検査がスタート**

アメリカでタンデムマス・スクリーニング血液検査機器が開発された当初から、その重要性を認識していた山口教授は、平成16年より、厚生労働省によるタンデムマス・スクリーニング研究班の班長として、全国に向けて検査の必要性を訴えてきました。島根県では、平成22年度より全国に先がけて自治体の補助によるタンデムマス・スクリーニング検査を県全域で開始しました。



タンデムマス・スクリーニング検査を支える機器。上がタンデムマス型質量分析計(タンデム・マススペクトロメーター)で血液中のアミノ酸などを高感度で分析します。下はGC/MSと呼ばれる機器で、必要に応じて尿中有機酸分析によって診断支援をします

「まだ全国実施でない理由は、この検査が研究段階のためなのですが、平成22年には全国で24万人の新生児に研究参加してもらいなど、大きな成果もあがり、この度、国の推進をうけて島根県での実施が実現しました」(山口教授)。

**検査に関わる人から一般までを網羅したタンデムマス・スクリーニングの体制づくり**

この実施により、より多くの病気が発見が可能になりました。「今は、全国的に注目されていますが、かつてマススクリーニン

グがそうであったように、すぐにその重要性を忘れてしまいがちです。今後は、一般社会への啓発活動を含め、関わる人の隅々まで、タンデムマス・スクリーニングによる検査の重要性を意識として徹底させ、より高度な体制づくりに繋げていきたい」と山口教授。

こうして、平成23年3月に厚生労働省より、全国自治体に向けて「タンデムマス法の導入」を積極的に検討する旨の通達が出され、これからは全国に普及するとのこと。

## 留学生が「学びの国際化」を語る

# 島根大学と国際交流

現在島根大学は、「学生交流に関する協定覚書」を世界12カ国、38の大学と結び、相互に留学生の派遣を行い、相互交流を行っています。そこで今回は、島根大学から海外へ留学した日本人学生、海外から島根大学へと留学してきた外国人学生8名による対談を行い、それぞれの経験や思い、将来の目標などを聞きました。

**まずは自己紹介を兼ねて、皆さんの留学のきっかけや目的を教えてください。**

**タミル** 日本語・日本文化研修生として島根大学へやって来ました。日本の素晴らしい技術や文化をモンゴルに紹介するために勉強中です。

**ケヴィン** フランスでは、語学(英語、日本語)と国際貿易を専攻しています。こちらでは日本語を学んでいます。オルレアン大学では、日本のいろいろな大学と交流があるので、他にも留学先の選択肢もありましたが、島根大学は先生の推薦もあって決めました。

**スザンネ** 私は島根大学を自分で選びました。ドイツでも大きくて賑やかな街が好きじゃないので、島根の静かな環境がとても気に入っています。日本文化について勉強していますが、古文にも興味があるので、これから古文の授業も受けたいと思っています。

**湯浅** ドイツのトリア大学へ交換留学生として行ってきました。入学当時から、大学生活でしか出来ないことをやりたいという思いがあって、その中のひとつが留学だったんです。ドイツでは憲法を学びたいと思っていましたが、向こうでは専門用語が多すぎて、まったく授業について行けなくて(苦笑)。それで、留学中に専攻

を経済に変えたという経緯があります。いまのゼミも経済です。

**ダヴィッド** ここにいるみんなと同じ時期に島根にやってきました。僕が勉強しているのは、日本語と日本の文化と歴史です。それと日本の文学です。

**是永** 留学したきっかけは、大学のときしか出来ないと思っていたので、それが実現して良かったです。私の場合は、具体的な勉強テーマがあったというよりも、フランス語が少しでも話せるようになりたいと思い、専攻と関係なくフランス語を学ぶ目的で留学しました。

**ティエルノ** 私も日本語の勉強が目的ですが、島根大学は第一希望ではあ



ゴメス・ダヴィッドさん  
(Gomes David)  
ジャン・ムーラン・リヨン第3大学(フランス)からの交換留学生



フッテンロファー・スザンネ・ルートさん  
(Huttenlocher, Susanne Ruth)  
トリア大学第二学部(ドイツ)からの交換留学生



ステファン・ケヴィン・セルジュさん  
(Stephan Kevin Serge)  
オルレアン大学(フランス)からの交換留学生



エルデンビレグ・タミルさん  
(Erdembileg Tamir)  
モンゴル健康科学大学(モンゴル)からの日本語・日本文化研修生



りませんでした。でも、日本語が上達することが目的なので、その勉強には問題ないです。

一同 笑い

西田 以前、アメリカに1ヶ月間のホームステイをしていたので、留学は2回目になります。今回の長期留学では、ヨーロッパから見た日本という視点を養いたくて留学しました。英語は社会人になってからはずっと勉強していくものだと思いますが、フランス語などは社会に出たら勉強しにくいと思ったので、今のうちにいっぱい勉強しておこうと思ったんです。

**留学生のみなさんは島根の印象。島大生のみなさんには留学先の思い出などをそれぞれ教えてください。**

タミル 島根に来る前は、「冬は寒いよ」と聞かされていましたが、そんなに寒くなかったですね。これならモンゴルのほうが寒いかも(笑)。モンゴルとは寒さの質が違う気がします。

スザンネ 私は「島根は田舎だよ」と教えられていたので、もっと田舎だと思っていましたが、そんなことはありませんでしたね(笑)。

今回の対談に参加してくれた学生達



西田尚晃さん  
ジャン・ムーラン・リヨン第3大学(フランス)へ留学



是永晴香さん  
ジャン・ムーラン・リヨン第3大学(フランス)へ留学



湯浅愛子さん  
トリア大学第二学部(ドイツ)へ留学



オバム・ティエルノさん  
(Obame Thierno)  
オルレアン大学(フランス)からの交換留学生



**ティエルノ** 私も同じように言われて来ました。例えばフランスと日本の田舎の意味が違いますね。  
**ケヴィン** そうそう。フランスでは、町というよりも戸数のわずかな村のことを田舎と言います。日本の田舎

はフランスと比べてそんなに田舎という感覚はないですよ。それと、私もスザンネさんと同じで、賑やかすぎるところは好きじゃありません。選択肢がいろいろありましたけど、東京の大学を選ばなかったのはそういう理由です。松江は静かだし、伝統的な感じがします。松江城周辺とか、イメージしていた日本の伝統的な雰囲気を感

じます。人はとても優しいですが、何となく外国人を怖がっているように思いますが。僕が日本語を喋れることが分かるくらいその態度も柔らかくなります(苦笑)。

**湯浅** 私もイメージのギャップがありました。例えば、ベルリンとかフランクフルトはすごく都市的で、私の思っている牧歌的なドイツとはかけ

離れていて、まるで東京みたいで、それには驚きました。

それと、ドイツは日本よりも時間の流れがゆっくりしているように感じました。私には、そのリズムが合ったので、勉強以外にも、環境を楽しむだけのゆとりがありました。おかげで、日本に帰ってから、なんでもなにかにせわしないのだから、帰国当初は生活リズムを調整するので苦労しました。

**ダヴィッド** 僕も静かな環境を好みますから、島根は良いと思いました。それに、僕にとっては剣道部があればどこでも良かったんです。今も島大の剣道部に所属して練習に励んでいます。

**剣道ですか？**

**ダヴィッド** はい。子どもの頃に黒澤明の映画を見て、その文化とか考え方が好きになり、剣道もそれで知ったんです。そうした興味から日本語を学んでみようと思ったんです。

日本に来るのは、今回で2回目になります。日本独特の文化や考え方にまた触れることができて、ますます日本が好きになり、改めて日本に住みたいと思うようになりました。できれば、京都や宮島などの伝統的な日本文化が残っている場所に暮らしたいです。あと剣道が強い土地



でもいいかな(笑)。

**一同** 笑い

**是永** 最初に驚いたのは、大人も学生も何か食べながら歩いてたり。でも、日本だと不作法と言われそうなく自然だということがそのうちに分かりました。それがレジの店員さんがみんな座ってるのもびっくりしました(笑)。

**それは日本人としてはびっくりしますね(笑)。**

**ティエルノ** 島根は田舎だけど田舎ではないという感じが、オルレアンととても似ています。それと松江の天気はとても面白いです。

**それはどういふところが？**

ティエルノ 雨が降って、雪が降って、天気になると、一日のなかですごく変わるところです。

なるほど(笑)

西田 僕の場合、自分の中でイメージしていたフランスがあつて、それとまったく違う部分に驚きました。

どういうイメージだったんですか？

西田 料理がおいしくて、町がきれいというイメージでした。でも、料理は美味しいものはあるけど、例えば、日本の料理ではおいしくなくても食べられても、フランスではまったく受けつけないものがあつたりしました。

街も建物自体はきれいなんですが落書きが多かったり、タバコの吸い殻が落ちていたり、鳩がやたら多かったです(笑)。とにかく、自分のイメージしていたフランスとは違いました。それで、ここまで違うなら、もつと違う世界も見ようと思って、フランス国内を含め、留学中に他の国も回ってみました。

他に印象深かった国は？

西田 ドイツのベルリンです。地面

から上がってくる冷気の凄まじさに、30分も外にいられないほどで、こういう経験も、テレビや映画で見ただけでは分かりませんでしたね。

一同 笑い

留学の経験をこれからどう活かしていきたいですか？それぞれの目標もあれば聞かせてください。

タミル

まずは日本語の能力をもつ

と向上させたいです。それと、まだテーマは決まっていませんが、言葉だけではなく、日本文化の研究をしたい。

ケヴィン 今回の留学を終えたら、フランスに戻ってさらにハイレベルな勉強に取り組んでいきます。

スザンネ 大学院に進んで、もつと日本文化の勉強を

深めたいです。そしてまた日本に戻ってきたいです。

湯浅 ドイツでいろいろな経験をさせてもらったので、今度は松江にいる留学生に、もつと松江を楽しんでもらおうと思って、留学生への支援活動をしています。これからも自身の留学経験が還元出来るような活動に関わっていききたいですね。

ダヴィッド 旅行会社を作るのが目標なので、島根のような日本らしい伝統文化が残っている地方を紹介するコーディネートをやりたいです。

是永 留学を経験して、日本人はもつと海外に行くべきだと実感したので、旅行関係の仕事に携わりたいという気持ちが強くなっています。

ティエルノ フランスとアフリカと日本の架け橋になるような会社を興したいです。そのためにも日本語をもつと上達させたいです。

西田 留学をそのまま就職に繋げようという意識はなくて、この経験が将来に活かせるよう、自分の中でもつと大きな人間力として育てていきたいと思っています。

どうもありがとうございました。

〔撮影協力〕 八雲庵



イベントサポートなどのボランティア・サークルとして活動していた「島大Spirits」も、誕生から3年が経ち、木村和宏代表(3年生)のもと、今では、地域情報のフリーペーパーで島大生のさまざまな活動を紹介するコラムを担当するなど、学生の情報発信サークルとして活動の幅を広げています。



情報共有を軸に、幅広い活動に励む学生ならではの機動力を活かした集団

2月25日に行われた「Japan All Students Project(全日本学生プロジェクト)」主催の国学生プロジェクト」イベント「日本をひとつに」全国47都道府県をつなぐタスキリレー(トピックス参照)では、島大Spiritsが島根支部の中核メンバーとして、運営はもちろん、白潟天満宮前天神ロータリーを主会場に活躍しました。



「日本をひとつに～全国47都道府県をつなぐタスキリレー」では、様々な立場の人がタスキをつなぎました。こうしたイベントをはじめ、地域の人々とともに活動しています。

「今後もさまざまなボランティア活動に参加していきたいので、なにか企画があれば、ぜひ声をかけて欲しいですね」と木村代表。学生ならではの幅広い人脈を生かした活動にこれから期待しています。



3年前の成績を超えて、目指すは優勝！  
島根県開催の中四国大会に賭ける熱い思い



多忙な合間をぬって週3回の練習に汗を流す「医学部男子バレーボール部」のメンバー。練習中も大きな声を出し、活気溢れる雰囲気だったのが印象的でした。

「勝負はもちろんですが、医師となったときに役立つよう、バレーボールを通して、マネーや協調性などの社会性を養いたい」という、矢野安道キャプテン(4年生)率いるのが、医学部男子バレーボール部です。

昭和52年創部と医学部のスポーツクラブの中でも古い歴史があり、現在はプレイヤー12名、マネージャー5名で、週3回の練習に精を出しています。

6月に行われる、中四国歯薬バレーボール大会を皮切りに、8月の西日本医学部体育大会、3月の日本歯薬体育大会への参加が主な活動内容ですが、「僕が1年生のとき、中四国で準優勝となつてからは、よい成績から遠ざかっているのが、現在はその成績を超えるのが目標です」(矢野キャプテン)。本年度は中四国大会の開催地が島根ということもあり、練習にも大いに熱がこもっていました。

## 同窓会、幹事代行致します。

費用は「参加人数」×「会費」のみ。  
専用ホームページを開設します！  
幹事様は名簿だけご用意ください。卒業時の古い名簿でもオッケーです。※お預かりした名簿は、同窓会の目的以外に使用することはございません。

パソコン・携帯・スマホで出来ること  
お申し込み・お問い合わせは ☎0852-20-1166  
FAX.0852-23-1279 E-mail: kanji@merit-inc.com  
株式会社メリット 幹事代行.com 山陰  
〒690-0012 島根県松江市古志原5-2-43  
http://www.kanjidaikou.jp 幹事代行 検索

## 島根大学オリジナル芋焼酎 神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」  
●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3150円(税込)  
※島根大学生協でしか販売しておりません。



島根大学生協同組合  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240  
http://omis.seikyuu.jp/shimane



# 島根大学は島根スサノオマジックを応援しています!



## 神話第貳章

### 西高東低のサバイバルリーグ。熾烈な順位争いへ!!

bjリーグは現在19チームで争い、東地区10チーム、西地区9チームで地区分けされていますが、スサノオマジックのいる西地区が1位から6位が拮抗するハイレベルな争いに突入。12月～2月までの戦いをプレイバック。

12月3日、4日	対) 仙台89ERS	88-81(O) 70-95(●)	好敵手仙台とは昨年同様1勝1敗の痛み分け。
12月10日、11日	対) 高松ファイブアローズ	96-62(O) 76-62(O)	大黒柱バーカーが出場停止も地力に勝るスサノオマジックが横綱相撲で完勝。
12月17日、18日	対) 大分ヒートデビルズ	91-71(O) 92-69(O)	2戦目にゴルソ選手が12得点、11リバウンド、12アシストとトリプルダブルを達成し勝利に大きく貢献。
12月24日、25日	対) ライジング福岡	76-83(●) 88-93(●)	古巣・福岡相手にバーカー選手が20点、24点と活躍も福岡得意のハイスコアゲームに敗れる。
1月7日、8日	対) 滋賀レイクスターズ	85-73(O) 64-79(●)	7日は黒のユニホームに身をまとった1夜限りのブラックマジックデー、滋賀を黒く塗りつぶしました。
1月21日、22日	対) 信州ブレイブウォリアーズ	83-66(O) 81-80(O)	今シーズン唯一の石見地区での開催。見事に連勝で浜田不敗神話は4に。
1月28日、29日	対) 埼玉ブロンコス	88-66(O) 71-67(O)	マイケル・バーカーが初戦35点、2戦目29点の大暴れでオールスター戦明け4連勝。
2月4日、5日	対) 浜松・東三河フェニックス	62-79(●) 83-85(●)	2戦目、昨シーズンの王者にあと一步と迫るが・・・。「聖地」松江で連敗。
2月10日、11日	対) 横浜ビー・コルセアーズ	66-73(●) 71-84(●)	新規参入の横浜に手痛い連敗。もう一人の得点源ゴルソの不調が響いた。
2月18日、19日	対) 岩手ビッグブルズ	76-55(O) 82-64(O)	初戦は今シーズン最少失点に抑え、待望の2月初勝利。今シーズン出雲では4戦全勝。
2月25日、26日	対) 大分ヒートデビルズ	98-81(O) 73-80(●)	初戦は今シーズン最多得点での勝利、2戦目は追いつける展開も、大分の老練な戦術にかわされた。



2月を終わって20勝16敗と依然西地区6位。プレーオフ出場圏内ではありますが、今シーズンのスサノオマジック、あくまで目標は西地区4位以内。これからは全ての試合が西地区4位を賭けてのサバイバルマッチとなります。

2012年3月からの試合は詳しくは島根スサノオマジック公式HPでチェック  
<http://www.susanoo-m.com/>

## 島根大学支援基金寄附者一覧 ご協力ありがとうございました。(平成23年12月～平成24年2月にご寄附いただいた皆様)

■個人からのご寄附(五十音順・敬称略)

- |       |       |        |        |       |       |       |       |
|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 今村 公彦 | 大村 光一 | 角田 修一郎 | 兼清 慎治  | 小林 幸平 | 齊藤 了  | 嶋田 麦  | 車野 悦郎 |
| 菅原 修  | 大畑 知  | 武甕 延雄  | 武甕 由美恵 | 豊坂 守  | 西田 典数 | 松本 敏明 | 山口 謙司 |
| 横田 裕二 | 吉仲 崇  |        |        |       |       |       |       |

※ご寄附をいただいた皆様の中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

島根大学では学生に対する修学支援を一層充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。

寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

TEL:0852-32-6603(総務課) ホームページ:[http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund\\_recruit/](http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/)

## 投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先 〒690-8504 松江市西川津町 1060 島根大学 広報室  
 FAX: 0852-32-6019 E-mail:jsy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp  
 ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>



Present

ご意見を頂いた皆様の中から抽選で10名様に島農場で収穫・加工されたオリジナルリンゴジャムをプレゼントします。



※当選者のお知らせは発送をもってかえさせていただきます。  
 ※応募不切/平成24年6月15日必着

## 編集後記

桜花爛漫の4月、新年度が始まりました。島根大学では、小林祥泰新学長そして役員体制が変わり、教職員一同、新たなリーダーシップへの期待と本学の更なる飛躍に向けて、心新たにスタートの春です。

さて、今号の特集は「新学長インタビュー」と「島根大学の国際交流」でした。地元企業でのインターンシップや海外留学を通じて社会に貢献できるタフな人材を養成する、と語る新学長と、留学経験を経て成長した日本人学生と島根で研鑽する留学生の対談。古代のロマン漂うスピ

リチュアルな来待ストーンや歴史ある武家屋敷の一角を舞台に、今を支える年代の想いや期待が、着実に次の世代に伝わっていく、そのような未来に繋がる継続性を感じさせる企画となりました。古代出雲を舞台に始まり、続いていく、ものがたり。島根大学は今までも、そしてこれからも、地元の「ものがたり」の一部であり、幸せなストーリー展開に牽引していく重要な役どころを果たしていきたいと思っています。

次号、広報しまだい13号をお楽しみに!

**予告 5月中旬** **平成24年度 国税専門官採用試験 直前セミナー 開催決定** 詳細は近日、当校HP上で公開!!

**公務員講座** 狙え!13年公務員試験合格!! おすすめは「**スーパースペシャルコース**」理系のキミには、土木職や機械職、化学職などの技術系公務員講座も!

親御様からのご相談や三者面談も随時受け付けています。

合格のLEC **松江北陵校** お問い合わせ ☎ **0852-32-3909**  
 月～金/9:30～19:30(密業20:30迄) 土/10:00～17:00(密業18:00迄)  
 【所在地】松江市北陵町52-2 ゆめつくす北陵1階(アイム教育事業部内)  
 提供校: **アイム教育事業部**  
アイム教育事業部は、株式会社東京リーガルマインド(LEC)の提携校として、各種選考校通学(Web・DVD)講座の受付・実施、通信講座の受付を行っています。この広告物の内容は発行日現在のもので事前の予告なしに変更する場合があります。予めご了承下さい。

**荒れた森林を元気にしよう!**  
 私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなでおんがら! **山陰合同銀行**

働く、輝く、笑顔で暮らす。



# 看護師・助産師 大募集!

皆様のご応募お待ちしております。  
\*病院見学、随時受付中!(土日・祝日の見学も可能)

新規採用・中途採用、随時受付中!

## インターンシップのご案内

毎月2~3回開催する予定です。  
詳細は下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先/医学部総務課人事担当  
TEL.0853-20-2021

応募方法等詳しくは下記HPで!  
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

島根大学病院

検索

島根大学医学部附属病院

平成23年6月新病棟完成!  
平成25年4月フルオープン!  
既存病棟・外来棟全面改修

地域医療と先進医療が調和する大学病院

国立大学法人  
島根大学 医学部附属病院